

皆さんこんにちは。日本科学未来館館長の毛利衛です。

土木学会創立 100 周年。誠におめでとうございます。

私たちは過去から「土木」という科学技術を発展させて文明を興し、社会を築いてきました。今では宇宙にまで広がり、6 人の宇宙飛行士が 90 分で地球を一周する国際宇宙ステーションの中でいつも仕事ができるようになりました。しかし、この小さくなった地球で、私たち人類は未来に向けて「土木」を使ってどのように進んでいけばよいのでしょうか。

土木が描く未来について考えるのは専門家だけの仕事ではありません。今や多くの人々が描く夢をもとに、専門家とともに明日の地球環境を作っていくことが必要な新しい時代になりました。

今回、土木学会では創立 100 周年を記念して、一般の方々と専門家が一緒になって土木の未来を考えるコンテストを企画してくれました。この先進的な取り組みに敬意を表するとともに、選考委員長として関わられたことを大変光栄に思っています。

このコンテストは、三つの部門からなっています。一つ目は市民普請大賞。市民自らが地域づくりに直接貢献している、とても興味深い最先端の取り組みを見ることができました。二つ目はアイデア部門です。これは幼児から大人まで若い世代を中心とした未来プランナーたちが自分たちの住みたい未来社会の夢を専門家と協力して描いてくれました。そして、三つ目のテクノロジー部門。これは将来土木技術者になろうと勉強している学生の皆さん、そして今現場で活躍している技術者の皆さんが実現したい未来の社会について、その実現を可能にする技術的な検討も含めた本格的なアイデアを示してくれました。

選考の結果、最終的には 15 チームを選ばせていただきましたが、今回のコンテストにご参加いただいたすべての皆さんの努力と熱意に、敬意と感謝を表したいと思います。

少しでも多くの人々の知恵で、私たち人類が今後もこの地球上で豊かに暮らしていくための重要な文化の一つとして、「土木」が今後も発展していくことを期待しています。